

会議録（会議結果概要）

名称	第6回 各務原市総合計画審議会
開催日時	令和6年4月23日（火） 13:30～16:00
開催場所	各務原市役所 本庁舎 4階会議室4-3・4-4
出席者	北角浩一会長、富樫幸一副会長、平野華織委員、阿部雄介委員、井戸輝雄委員、可児正則委員、近藤亜矢子委員、志津野茜委員、篠田勲委員、松浦知恵委員、森田宏委員、横山浩之委員、和智陽子委員、河合正嘉委員、山田昭仁委員、鶴飼明男委員、江口佑美委員、別宮理恵委員、吉田明弘委員 ※欠席者：柴崎建委員、酒井聡委員、中野正勝委員、福島茂委員、亀井篤委員、林佳廣委員
議題及び審議・協議結果等の概要	次第 1 開会 2 議事 （1）市民（若者）ワークショップ等の状況について （2）次期総合計画前期基本計画（原案）について 3 その他 4 閉会
	1 開会 事務局より説明 【会長】 ・これから次期前期基本計画の具体的な検討に入っていくこととなる。今回は皆様からご意見をいただき、来月はその意見、提案のもとでもう一度見直しを行い、6月は最後にチェックして答申まで持っていけたらと考えている。 2 議事 （1）市民（若者）ワークショップ等の状況について ≪事務局より説明≫ 資料2 市民（若者）ワークショップ結果報告書 資料3 各種団体・企業へのヒアリング調査結果報告書 ≪質疑意見≫ 【会長】 ・ただいまの事務局の説明については、この内容で確認したということによろしいか。

	【全員】 ・異議なし (2) 次期総合計画前期基本計画（原案）について 《事務局より説明》 資料5 次期総合計画前期基本計画（原案） ・基本目標1から3までについて説明 《質疑意見》 【副会長】 ・総合計画の大きな目標の一つである、市民をいろいろつないでいくという目標に対して、まちづくり推進課でもマッチングの交流会をしており、個々の団体ではなかなかできないことを、お互いに協力することでやっていこうという気生まれてきている。そのようなチャンスが市内各所で生まれてくると、全体として各務原市が岐阜市や関市を追い上げるのではないか。 ・子どもをこのまちで暮らして育てていこうという雰囲気醸し出されていくと、大きな方針の中に小さな様々な市民の活動とそのつながりが生まれて、人口減少の歯止めになると思う。 【委員】 ・市民協働が活発化すると自治体の活性化にもつながるため、力を入れていくべきである。 ・各地区の自治会の活動がしっかりすることが、足腰強い地域をつくることにつながり、それが広く市民が協働するということにもつながっていく。 ・3ページの現状と課題1点目の2行目にある「市民協働の重要なパートナーである自治会は」という文言について、私はパートナーというより、その市民協働のベースとなる活動が自治会と考えていたため、どうかと思う。 ・市民活動団体との連携を含めて、地域コミュニティが維持できるように支援していく必要がある。どのように市民活動団体との連携をしていくとよいのか、具体例があれば教えてほしい。 【事務局】 ・市内には積極的にまちづくりに関わろうとしている市民活動団体はたくさんあるため、新たな外部の団体とのマッチングによって自治会活動、地域コミュニティが活性化できたらよいと考えている。 【副会長】 ・市民活動で、助成金を使い子ども食堂をやろうとした方がおり、自治会がサポートに周って一緒に実施したケースもある。 ・八木山やつつじが丘等の自治会では、高齢化が進んで、これまでのような自治
--	--

	会活動ができないため、見直してスリムにする取組をしている。総合計画の中にも、抽象的な政策論ではなく、実際行っていることが書かれていれば、もっと工夫して、このような自治会にしようという動きも出てくると思う。 【委員】 ・文化が発展していると、都市そのものも発展し、市民の目も輝いてくると考えている。 ・学校でも1年に1回程度、芸術鑑賞をする機会を設け、子どもたちに日本の文化、各務原の文化を知ってもらうことができれば、子どもの感性は違ってくる。 ・文化芸術は、議会等へ説明が大変だと思うが、それを乗り越えて、初めて育てられる。一つ一つ積み重ねながら文化を育てていきたい。 【委員】 ・残念なことに、スポーツに関わる各種目の団体で、高齢化が進んで、案を生み出すことができない状況にある。 ・教育委員会とスポーツ協会それぞれが、待ち構えて言われてやるのではなく、提案をして進めていくことが、ウィンウィンの関係で形を整える一つになると思っている。連携を強くしていかなければ協働が進まないと感じている。 ・今後、スポーツに携わる指導者に手厚い支援ができれば、子どもたちへの指導の入れ方、勧誘の仕方も変わってくると思う。そういうことも踏まえつつ、考えてもらえればありがたい。 【委員】 ・私は、現場で働いた経験と、自分が親になってから子育てに携わる者として、保育士の就労環境は、働き方改革等で働きやすくなっていると思うが、まだ潜在保育士がたくさんいる。 ・働きたくても預け先がなく働けず、小規模保育の事業はたくさんできているが、希望が通りづらく、近いところに預けることができないため、他市に子どもを預けて仕事に行っているという母親の声を聞く。保育士が、ずっと仕事を続けられる環境があれば、親たちもそうだが、保育士たちの問題解決もできる。 ・バスの普及など、子育て世代の小さな子どもを抱えている母親たちが、いろいろなところに出かけられる環境があれば、各務原市で子育てしてよかったと思う人が増えるのではないかな。 【委員】 ・支援の切れ目がない教育を目指していくために、学校になかなか行けない子などの、取りこぼしのないよう、母親が相談できる場を充実して、そういった取組の市民への周知を徹底してほしい。 ・17ページに「市内の小・中学校を中心に、地域学習など子どもたちが郷土の歴史や文化財について学ぶ機会が設けられている」と書いてあるが、小さい頃の体験は、将来的な夢を持つとか、あの職業に就きたいとか、そういうものに影響があると思う。芸術の分野では小さい頃に今よりもたくさん聞ける機会を
--	--

	増やすことを教育委員会で考えたらどうか。 ・ 小学校のイベントだけではなく、地域の方を取り込んでいけば、もっと文化芸術の広がりができる。 ・ 60 歳から 75 歳ぐらいまでの方が社会に仕事しに出ていくチャンスであると考えれば、その高齢の方に仕事として、教育の分野で子どもたちに関わっていただければと個人的には思っている。 ・ 自治会が少なくなっていることに危機感があると思うが、その分、年配の方々が働いていることを、前向きに各務原市は利用していければと思う。 【委員】 ・ 今、市の世帯数が大体 6 万 2500 世帯前後であり、自治会未加入世帯が大体 5800 世帯ほどある。 ・ 自治会に入っていない人がゴミを捨てていくという話をよく聞くが、市民税を払っているから、それは断りきれない。市の立場と自治会の立場とで捉え方が違うが、少しでも穴を埋められたらよいと思っている。 ・ 担い手不足がよく言われている。高齢化が進んで河川清掃は今年度からやめになった。60 代の後半でもまだ働いてみえる。自治会長も、平日に行う行事は多くあり、参加できないこともある。 ・ ここに触れられている文言は全て理想論が多いが、現場は本当に難しく、十人十色でいろいろな考え方を持っている。昔は我慢していたが今は自分の考えをみんなが言うってしまうためやりにくい。 【委員】 ・ 学校教育に関しても、社会教育の中の青少年の健全育成に関しても、スポーツに関しても、その中の人たちでやりきれない部分は何でも地域の力を活用してというように言われるが、地域の力にうまく逃げているような感じがして、そのところを詰められてないような気がする。 ・ 自治会や子ども会など、各種任意団体の力を生かしながら、という話だと思うが、この 3 年のコロナ禍で地域の力や交流がなくなり、衰退している中で、どのように活用するのかが具体的に見えないため、全然前に進まないような気がする。3 ページ目の取組方針に「自治会の活性化」と「地域活動への参加促進」があるが、これだけでは追いつかないと思うため、具体的に枠組みを考えた方がよいという感想を持った。 【委員】 ・ こんな各務原になったらいいなと思うと同時に、誰かがやってくれる話ではないため、自分の立場で自分ができることをして、この目指す姿に近づいていけるように力を使っていかなければならないと、改めて自分自身の活動に対して足元を見させていただいた。 ・ 子どもたちのための職業体験、スポーツをする機会など、たくさんのイベントが用意されているが、発信力が非常に弱く、せっかくいろいろやっていること
--	---

	の情報が届いていないことがある。保護者に対するイベントの告知や、情報共有ができるような仕組みを、一緒に作っていけないかと思っている。 ・地域の力について、助けてほしいという SOS を学校側から言ってこないのも助けだけでなく、ボランティアをやってもいいという大人はたくさんいるため、そういう情報を流してほしい。 ・タブレット一つとっても、大人よりも子どもたちの方が遥かに能力や技術を身に付けてしまい、大人がついていけない。自分の子どもが何のトラブルに巻き込まれるのか、どんな大人にならなければいけないのか、どんなことを学ばなければいけないのかがわからないまま、子どもたちだけが先走ってしまうという現状になりがちであるため、親の教育を PTA も一生懸命考えてやっていかなければいけない。行政にそのような部署がないのかもしれないが、一緒になって親たちを育てていくような機会や場面を作っていけたらよい。 《事務局より説明》 資料5 次期総合計画前期基本計画（原案） ・基本目標4から6までについて説明 《質疑意見》 【委員】 ・交通環境というものは、蘇原、鶴沼の沿線の人ほとんど考えたことがないかもしれないが、地域によって、シニアに対して、子どもに対してなど、対象者に合ったように考えてほしい。 ・一人暮らしの人が最近多くなり、高齢者だけで住んでいれば当然役員も出せなければ、シニアクラブに入ることもない。しかし、お年寄りはできれば死ぬまで家にいたい、そのあたりのところも含めて、見ていただけるようになるという。 ・防犯パトロールや交通安全も担い手が少ない。防犯パトロールについて、立ち上げるときには協力をしてもらえるが、立ち上がった後の支援が全くないというのがほとんどで、市からわずかでも支援をしてもらえるとよい。どのようにしたら継続できるのか、そういう相談に乗ってもらえると、将来的にもっと増えるのではないか。 【委員】 ・35ページに「地域共生社会」という大きなタイトルがあり、言葉はとてもいいが、具体的に何をするかというところがわかりにくい。 ・自分たちがその地域で住み続けたいという思いから、住民同士の支え合い活動や、移送の問題に対する取組を、長年かけて少しずつ積み重ねてきた。その結果、八木山とか緑苑は支え合い活動ができ、移送の問題も少しずつクリアされている。とても時間がかかるところであるが、数値などで将来像を示しながら
--	---

	ら、情報発信をしていくことの大切さをこれまで学んできた。 ・ 包括的な支援体制は、窓口を一本化して、まちづくりでも、福祉でも、高齢でも、子育てでも、包括的に市民の方に対して受け入れる仕組みづくりは必要なのではないかと考えており、この重層的な支援体制の整備の必要性は特に感じている。 ・ ボランティアハウスのようなつながりづくりは必要であり、地域で作りたいということを言い続けていきたいと思っている。新しいものを作ることはとてもエネルギーが必要であるため、自治会や様々な団体と連携をとりながら、既にあるものをうまく繋ぎ合わせてやっていかなければ、担い手の不足解決はできないということを感じている。 ・ 自分の老後をどのようにしたらよいのかを相談する機関がないという問題がある。市民後見人が1人誕生したため、そういった方々の権利を守る業務というのも引き続き進めたいと考えている。 【委員】 ・ 子どもへの交通安全教室が非常に重要だと考えている。小さいときにしっかりとしたルール・マナーを学ぶことが、交通事故防止で一番重要と考えているため、市、学校と連携して、今後とも交通安全教室を実施していきたい。 ・ 去年は自転車盗難や空き巣の被害が増えてきている。これを防止する一番簡単な方法は鍵をかけるということで、そういったところを推進していきたい。 ・ 犯罪者は地域の目を嫌うため、地域で不審な人を見張るということも非常に大切であるとともに、防犯カメラの設置を推進してほしい。 ・ 警察や消防が連携して、安全安心を守っていきたい。 ≪事務局より説明≫ 資料5 次期総合計画前期基本計画（原案） ・ 基本目標7から9までについて説明 ≪質疑意見≫ 【委員】 ・ 今年度、私たちの団体では、岐阜各務原高校と協力し、企業の人材確保が難しい中で、高校生に地元の企業を知ってもらうための取組を行っていく。この計画をしている中で、高校生の子たちがいずれ各務原に戻ってきて就職してくれることにつながるとよい。 ・ 女性が働きやすくなるために、託児、病児保育などの取組をしていく企業に対して、補助金、助成金の形で援助をしてほしい。女性が働きやすくなるということは、企業にとっても発展につながっていくため、そのようなところに力を入れていくとさらに良いまちになっていくのではないかと。 ・ 昨年度、公共施設の民間利用についてという政策提言をした。その意見を活用
--	--

していただき、更なる住みよいまちづくりにつなげてほしい。

【委員】

- ・観光では、コロナ禍から期間が経過したため、催事は充実しつつある状況である。ただし、催事は一過性のものになってしまうため、これが産業観光になっているかどうかは疑問のところもある。
- ・市にある観光資産を見ても、市民も知らないところも多くあるため、観光資産を市民の方によく知ってもらおう活動も、これからしていかなければならない。
- ・各務原市の強みとしては、製造業と豊かな自然がある。製造業では産業観光という切り口がある。
- ・立派な産業都市であれば、そこには緑が必要であり、緑のある環境の良いまちというイメージを作るということにおいて、ボタニカルシティの実現のような取組を行い、将来的には、観光というコンテンツを通して、地域振興やまちづくりに関与して、移住定住にも貢献できる形で展開していきたい。
- ・若い人に中心になってもらい、若い人を呼べる方向に展開していければと思う。観光も一つの文化だと思っているため、若い人が中心になって未来文化財団とも連携しながらやっていければと考えている。

【委員】

- ・若い人が集まらないとか、高齢者の仕事を作りたいとか、子育てしながら仕事ができるような環境を作りたいとか、全ての要素が経済的な要素を持っている。それぞれの家庭に一定の可処分所得があって初めて回り出すことであるため、それをうまく作るために、どこの時点で最初にどれぐらいの資金やリソースを投入すると、それが他のこの項目に派生していったって、それがまた次のこの項目に派生していったってという、そういう流れ、シナリオが見えるようなものを見たい。それを見ることによりコンセンサスが取れ、より具体的に今後どういう方向で、みんなで力を合わせて進んでいけばいいかが分かりやすくなる。

【委員】

- ・他の企業や商工会にとって、潜在的な雇用の掘り起こしが必要になってくる。自分の時間帯や働き方のチョイスに合うところで働きたい、でも働けないという人がいるということや、企業側としても、長期で働いてもらうのか、短いこの部分だけ技術ある人が来て欲しいのかという、労働力のマッチングが上手くいっていないと感じている。働き方は30年ぐらい前からかなり変わってきている。
- ・コロナ禍により働き方も変わってきている中で、専門的な分野でマイスター的に技術力を高めて長期で働く人を育てていくことと、もう一つは多様な自分の時間帯に合った労働をチョイスする労働とをマッチングするのは大変なことではあるが、そこをクローズアップしていくことが重要である。
- ・正社員で長く働くことが昔は美德とされていたが、意識改革を進めていき、短時間の労働者の掘り起こしなども並行しながら、進める必要があるのではない

かと感じている。

【委員】

- ・ 81 ページの現状と課題に、情報発信の方法として、「広報紙、ウェブサイト、SNS」と紙、通信というメディアに関する記載があるが、ここにテレビ広報のような放送分野もあると、より多くの方に情報が伝わるのではではないか。
- ・ 発信力あるインフルエンサーとかタレント的な方が、番組には必要であると考えている。各務原市には市長や副市長など、個性豊かな方がいるため、そういったところで番組を盛り上げていければと思っている。動画というのは、活字と違い、ダイレクトに伝える力があると思うため、まちの力、活力を、放送を使って伝えられればと感じている。

【委員】

- ・ 農地が持っている多面的機能、これを地元で守るために、市、国は交付金を出す制度があるが、各務原市では残念ながら団体が3つあるだけである。そういう活動ができていない中、農地等を維持していくことを考えたときに、地域の力で守るしかない。
- ・ 地域の力で、その地域の農地を守っていく、環境を守っていく、多面的機能を守っていくことをやっていかなければ成り立たないため、そのあたりについて、ぜひ計画の中に盛り込んでいただきたい。

【会長】

- ・ 産業で一番の課題は雇用問題であり、この点については市とタッグを組んで少しでも改善に向かえるようにしていきたいと考えている。
- ・ 各企業が抱えている問題だけではなく、国全体として抱えている問題も多い。資源高、円安、これは市というよりも、国としてやってもらわなければいけないことが多いため、ここで話してもなかなか厳しいと思う。経済界として一番のリスクというのは、政策リスクであると思っている。県や国からの圧力に負けず頑張っていきたい。
- ・ ジェンダーフリーで、男女のトイレを統合する動きなどもあるが、総合体育館を作られるときは、ぜひ別々にしていきたい。
- ・ DX も、いろいろところで頑張っている様子があり、市でも業務の効率化というところでDXが入っているが、ぜひ必要な効率のいい部分を集中してやっていただきたい。

【会長】

- ・ 最後に、この基本計画のイントロダクションについては、冒頭に資料4-1の施策体系や基本計画のコンセプト、例えば人口減少、少子化対策に重点を置くことなどがあった方が、最初に全体を見て分かりやすいと思う。
- ・ 全体を読んで感じたが、文章が読みにくい部分や、分かりにくい部分があるため、もう少し整理する必要があると思う。
- ・ 説明の冒頭において、随時読み返して分かりにくい箇所などを見直していき

	いという話があったが、委員の皆様からいただいた意見を踏まえて内容を見直していただき、全体を点検してもらえればと思う。 4 その他 【事務局】 ・次回第7回の審議会の日程は、5月22日水曜日9時30分から2時間30分程度で、場所は本日と同じこの会議室で、議事の内容は引き続き前期基本計画についての協議を予定している。 ・6月25日火曜日の9時半から開催予定の審議会が最終回の予定と考えている。 ・その後パブリックコメントを行い、最終的に市で基本計画の案を取りまとめて、9月の市議会の議案として上程する予定としている。 5 閉会 【会長】 ・以上をもって第6回各務原市総合計画審議会を終了する。
会議資料	資料1 各務原市総合計画審議会 委員名簿 資料2 市民（若者）ワークショップ結果報告書 資料3 各種団体・企業へのヒアリング調査結果報告書 資料4－1 次期総合計画前期基本計画（原案）施策体系 図 資料4－2 次期総合計画前期基本計画（原案）施策体系一覧 （現総合計画後期基本計画比較表） 資料5 次期総合計画前期基本計画（原案） 資料6 次期総合計画前期基本計画（原案）指標一覧
備考	